

■「桂中スタンダード」の展開

桂川中学校校長 石田 英喜

「鍛えて、ほめて、子どもの可能性を伸ばす!」は、「鍛ほめふくおかメソッド」のコンセプトです。本校におきましても「学ぶ意欲や向上心、逆境に立ち向かう心」など、子どもが自律的に成長するため「鍛ほめふくおかメソッド」を取り入れ5年近くが経ちます。

本校においても、この取組を更に強化すべく昨年度より福岡県重点課題研究の取組をはじめて参りました。この研究において本校では、一単位時間の授業の流れを全教科において統一し授業スタンダードとして取り組んでいます。

授業では、その一時間で生徒が何を学べば良いのか、授業の目標を持つことが重要となります。

そこで教師は授業の前段で、「めあて」を提示し生徒に授業の見通しや課題を明確に示します。その後、課題解決のために生徒が思考を巡らせ、考える時間を持たせます。この時間で、自らが見出した考えを生徒同士で交流したり、教師からのヒントを基に自分の考えが正しいかを付加・修正したりしていきます。

そして、授業後段では、自分たちが見出した答えをまとめ、この一時間での学びで重要なことは何かを確認します。

さらには、確認テストなどを行い本当

に自分が理解できているかを確かめるといふ流れで全ての授業を展開しています。保護者のみなさまにもこの取り組みの趣旨をご理解いただき、生徒が自分で考え、課題解決の手順を持ち、自ら進んで家庭学習等に取り組んでいるかを見守っていただければと思います。

教育は、学校・家庭・地域の三者がそれぞれの役割を果たしながら連携することで効果的です。ご家庭でも意識していただき、鍛えて、一生涯がんばっている姿や達成した姿をほめて、子どもたちを育てていただきますようお願いいたします。

■令和2年度「未来への一歩」を活用した学力向上の取組における児童生徒質問紙調査

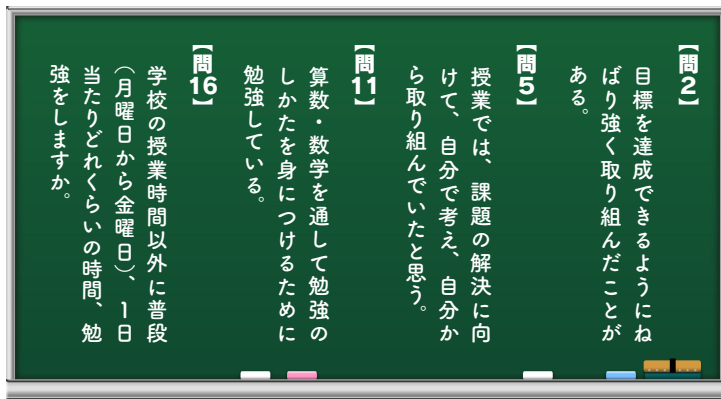
桂川町教育委員会

本来なら、例年12月号は、4月に実施される全国学力・学習状況調査の結果を分析し、桂川町の児童生徒の学習の状況や生活実態についてお知らせするところでしたが、今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響で、全国学力・学習状況調査が中止となりました。

そこで、今月号は、令和2年6月に、福岡県教育委員会が実施した「未来への一歩」を活用した学力向上の取組における児童生徒質問紙調査の結果についてお知らせします。

調査対象は、小学校五・六年生と中学校一・二年生です。

県教委が、定着状況診断テストと児童生徒質問紙調査を関連させて分析した結果、左記の4項目で望ましい回答をしている場合、定着状況診断テストの正答数が多くなる傾向があることが分かりました。



の確保「2 非認知的能力の向上」が学力向上に重要であることが改めて分かりました。

桂川町の児童生徒が肯定的な回答をしている割合を県平均と比較すると、問2・問5は、桂川東小は県平均を大きく上回り、桂川小と桂川中はほぼ同じでした。問11は、小中学校ともに、県平均をやや下回っています。

問16では、1時間以上学習している児童生徒の割合は、県平均と比べて、小学校はやや上回っていますが、中学校はやや下回っています。

全くしない児童生徒の割合は、桂川小はほぼ県平均で、桂川東小やや上回り、桂川中はかなり上回っています。

今後は、1時間程度の学習時間を確保した上で、非認知的能力についての自己評価が低い児童生徒の非認知的能力を高め、つまずきのある内容の定着を図る取組を進めていきます。

※「非認知的能力」とは…IQなどのように数値化できる能力ではなく、数値で測ることのできない「内面的な能力」を指します。例えば、「やる気」、「最後までやり抜く気持ち」、「協調性」などです。

具体的には、問2・5・11は、非認知的能力に関わる項目で、この3つの項目と問16の学習時間に関わる項目の結果に着目したところ、「1学習時間(1時間程度)